ともだちのときちゃん

ときちゃんもおしゃべり

1年　C・Iさん

さつきちゃんはものしりで、よくしゃべります。ときちゃんは、はなすのがとくいではありません。ときちゃんはまちがえたらわらわれるのかもとおもっていえないとおもいました。でも、さかしたさんのスカートのもようをおぼえていたり、ゆりもしっていたので、ものしりです。きっと、はなのなまえではなくて、はなのきもちをゆっくりかんがえていたのだとおもいました。たかおにで、ときちゃんをいれてあげないのは、わたしはすこしいじわるとおもいました。ときちゃんがいれてとこえにだせないことをさつきちゃんはしっているからです。でも、いいたいことをいえないと、むねのなかがくるしいことがわかったさつきちゃんは、これからは、いれてあげられるとおもいます。ときちゃんは、カメをみたときのように、おもいでをだいじにしています。めにみえるものではなく、めにみえないものをだいじにしているとおもいます。ひとのきもちをことばにするのは、さつきちゃんより、ときちゃんのほうが、とくいです。もしかしたら、こころのなかでは、ときちゃんのほうがおしゃべりなのかもしれません。きっと、ときちゃんは、さつきちゃんのいじわるもわかっていて、それでもともだちでいるのだとおもいます。

おとこのこに、ときちゃんのえがなげられたときは、こえをだせばよかったという、こうかいのきもちがあったとおもいます。じぶんのことしか、かんがえてなかったとはんせいしているさつきちゃんは、とてもやさしいきもちを、もっているとおもいました。

わたしのがっこうにも、いろいろなともだちがいます。たくさんはなしをして、どんなことをかんがえているのか、ときちゃんのようにゆっくりかんがえたいです。そして、きのうのじぶんより、きょうのじぶんは、すこしでもこころがおおきくなっているように、まいにちがんばりたいです。